

東京都立鹿本学園 知的障害部門 中学部2年生 実施要領

1. 実施日時 : 2026年3月9日(月曜)、13時25分～15時00分
2026年3月12日(木曜)、13時25分～15時00分
2. 受講生徒 : 3月9日 / 中学部2年自閉学級
3月12日 / 中学部2年知的学級・重度重複学級
3. 交流のテーマ : “はくぶつかん”の宝もの ―ハニワとまが玉― を たのしもう

4. ねらいと展開(美術の教科授業に位置づけて)

(1) ねらい

- a, 生徒が美術で作った古代服を発展させ、昔の人が玉の首飾りを付けて身を飾っていたことを、人物埴輪の観察から気付くことができる。
- b, 博物館にある宝物のまが玉をさわって観察を楽しみ、大昔の人の気持ちになって、玉の首飾りを作ることができる。
- c, 博物館という存在を記憶に残し、利用する意欲をもつことができる。

(2) 展開 / 95分(休憩含む)

配時	児童の主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	生徒への期待
導入 10分	講座の準備と始まりの挨拶 ・ 講座スタッフと挨拶する。 ・ 学習内容を確認する。 ＝博物館の宝ものを楽しむ	・ スタッフの自己紹介の後、全員で挨拶して始まりを意識させる。 * 担任が授業の開始を伝え、全員で挨拶の言葉をかけあう。 ・ 期待感がもてるように説明する。	・ 気持ちを講座に切り替えることができる。 ・ それぞれが取り組む内容について見通しをもつことができる。
展開① 10分	古代服に注目する ・ 生徒が制作した古代服を身に付けて、相互に観察して意見を述べあう。 ・ 古代の人物埴輪を観察し、古代服のデザインについて想像する。	・ 美術の授業で作った古代服から、そのデザインのおもしろさを認識できるようにする。 ・ 人物埴輪から当時の人が身につけていた装飾品に注意が向くように導く。 * 説明の間にスタッフも古代服を身につける。	・ 古代服から今とは異なる大昔を感じることができる。 ・ 古代人が、玉の首飾りを身に付けていたことに気づくことができる。
展開②	まが玉などの玉類を触察する		

5 分	・実物のまが玉などの玉類をさわって観察する。 ・感想を述べ合い、身に付けた時の気持ちを想像する。	・触察は丁寧に扱うようにアドバイスし、スタッフがサポートする。 ・どんな人たちが身に付けていたのかなどを楽しく想像できるように導く。	・丁寧に扱って触察を楽しむことができる。 ・玉類のもつ意味に気づくことができる。
展開③ 15 分	パズルを組み立てる ・まが玉と人物埴輪のパズルの組み立てに挑戦する。	・パズルは A4 サイズ 6 ピースのもので、組み立ては 3～4 人 1 組でおこなう。	・協力してパズルの組み立てができる。
休憩 10 分			
展開④ 30 分	首飾りを作る ・まが玉の首飾りを参考にして、木玉やガラス玉、ビーズを使って首飾りを作る。 ・可能であれば、作った首飾りを付けて写真を撮る。	・制作用の玉を誤飲しないように、スタッフは注意・確認しながら進める。 * 玉の紐通しが困難な生徒には半完成品を渡し、紐を縛ることで出来上がりとなるようにする。 ・写真撮影では、希望する生徒は古代服も身につける。	・玉の首飾りを、楽しく作ることができる。 ・写真撮影で記憶に残すことができる。
展開⑤ 10 分	博物館を認識する ・博物館の展示室の様子を、パワーポイントの画像で観察する。 ・博物館という言葉のを憶え、関心を高める。	・博物館には、埴輪やまが玉などの宝物が展示されていることがわかるようにする。 ・博物館の単語を発声して、意識できるようにする。	・博物館の展示とその資料に興味を持つことができる。 ・博物館と声に出して言うことができる。
まとめ 5 分	感想を伝える ・感想を言葉や態度で表すとともに、埴輪やまが玉等の宝物が博物館でみられることを記憶に残す。 ・終わりの挨拶をする。	・生徒が博物館の名称を記憶に残し、行ってみたいと思えるようにする。 * 生徒が作った首飾りをプレゼントし、学習を記憶に残す。 ・講座の終了を意識させる。	・自分の気持ちを言葉や態度で伝えることができる。

(3) 使用教具・機器

- 教 材 : 実物のまが玉・管玉・丸玉 (古墳時代)、まが玉と人物埴輪の 2 次元パズル
- 道 具 : 首飾り制作用材料 / トンボ玉・ガラス玉・木製管玉等・細紐
生徒が準備するもの / エプロン・スモッグ
教員に準備してもらいたいもの / ハサミ (首飾り用の細紐を切るため)
- 機器・教具 : パワーポイント用 PC、ネクストラップ (博物館ネームプレート用)